

「主体的・対話的に取り組む保健体育学習の創造」

～「単元のゴールの姿」を設定した授業づくりを通して～

熊本県 益城町立益城中学校

教諭 武田 雅裕

1 研究目的

(1) 主題設定の理由

豊かなスポーツライフの実現のためには、生徒が「楽しい」と思える授業の在り方が重要である。そのためには、先行研究や生徒のアンケートからも明らかになっているように、授業の中で「できた」「わかった」「友達と交流しながら活動した」という経験が大事になる。また、生徒が主体的に取り組むことができるようにするためには、授業に見通しをもたせることが特に重要ではないかと考えた。そこで、『単元のゴールの姿』を設定した授業づくりを通して」というサブテーマを掲げ、本研究に取り組むことにした。

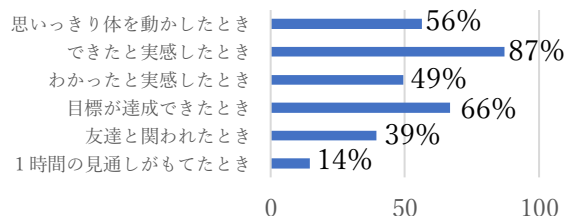
(2) 本郡生徒の実態から

《新体力テストの結果から》※県基準値を超えた種目数の割合

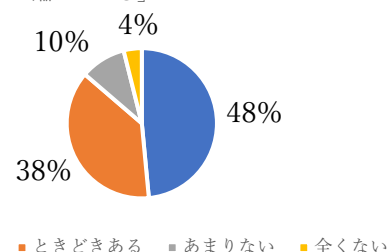
H28	男子	20.1%	女子	41.3%
H29	男子	19.6%	女子	20.1%
H30	男子	37.6%	女子	66.3%
R1	男子	66.3%	女子	54.3%
R2	新型コロナウイルス感染症の影響により未実施			
R3	男子	41.3%	女子	33.2%
R4	男子	38.0%	女子	30.4%

《生徒アンケート》

「体育の授業中に意欲が高まるのはどんな時ですか」



「授業には、単元の見通し（1単元や1時間）が分かって臨んでいる」



新体力テストの結果については、年度ごとにばらつきはあるものの、少しずつ上昇傾向にあったが、R1をピークに体力の低下傾向が見られるようになった。また、運動の二極化が顕著になり、運動部活動への加入率も低下傾向が見られる。

また、生徒アンケートの結果から以下のことが考えられる。

- ①「授業には単元の見通しが分かって臨んでいる」の質問に「あまりない」「全くない」と答えた生徒の多くは、体力に自信がない生徒である。
- ②1時間や単元の見通しがもてない生徒の多くが、主体的に活動に取り組めておらず、楽しさを感じなかったり、体力向上につながらなかったりすることがある。
- ③見通しをもち、友達と一緒に運動を行うことで、運動が苦手な生徒も安心して活動できる。
- ④第1学年では、中学校での体育の授業に不安を感じている生徒が多い。

これらのことを踏まえ、研究の仮説を設定し、本研究を進めてきた。

2 研究の仮説

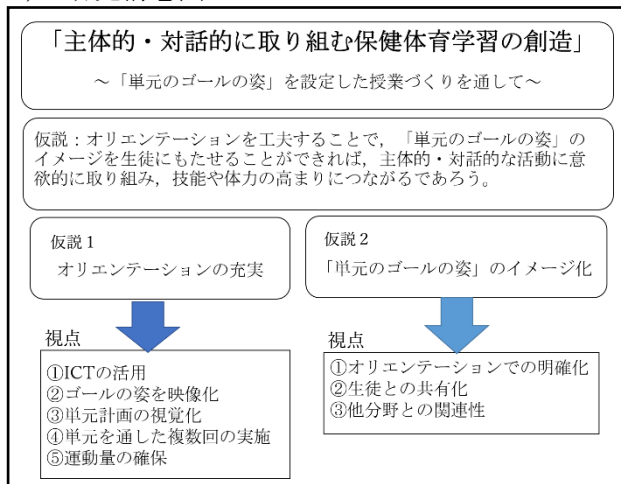
- (1)オリエンテーションを充実させることができれば、生徒が見通しをもって主体的に活動に取り組

み、話し合いや教え合いの活動が充実し、運動の楽しさを感じることができるであろう。

(2)「単元のゴールの姿」がイメージできれば、自ら進んで活動に取り組み、技能や体力の向上につながるであろう。

3 研究の内容

(1) 研究構想図



(2) 研究の実際

【仮説1 オリエンテーションの充実】

視点① ICTの活用

生徒が視覚的に分かりやすいように、テレビやプロジェクターを利用してオリエンテーションを行った。動画に関しては、自分たちの映像を比較することで、めあてに対する到達度を確認させた。自分たちの成長や課題をもとに、意欲向上のきっかけにした。



お手本となる動画 生徒の関心や経験によりプロの動画や中学生の動画を使用した。



視点② ゴールの姿の映像化

単元のゴールの姿を、学習指導要領の言葉そのまま使うのではなく、生徒にとって分かりやすい言葉を使って示した。また、生徒がゴールの姿をイメージしやすいように、小学生や中学生、プロなど、段階的な動画を用いて、何ができるようになるのかを示した。

全体単元目標
ラリーを続けてゲームができる
今日のめあて
自分の単元目標を設定する

ゴールの姿の提示

視点③ 単元計画の視覚化

生徒用の単元計画を作成することで、いつ、何をするのか、めあてや技能のポイントなどを示した。また、オリエンテーションで画面に表示するだけでなく、活動場所に掲示したり、学習カードに載せたりすることで、生徒が常に先を見通して活動できるようにした。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
活動内容	【オリ】 【練習】 切り返し系	【練習】 切り返し系	【オリ】 【練習】 切り返し系	【練習】 切り返し系 回転系	【練習】 切り返し系 回転系 中間発表会	【オリ】 【練習】 発表会に向けて	【練習】 発表会に向けて	発表会
めあて	「自分のスキルを確認することができる」	「しっかり着手して突き放しができる」	「空中姿勢で美しい姿勢ができる」	「スムーズに回転ができる」	「自分の課題に気づくことができる」	「課題解決に向けた練習ができる」	「発表会に向けて積極的に活動ができる」	「できえの高い演技ができる」
体力UP		筋力	平衡性	柔軟性	筋力	平衡性	柔軟性	筋力
スキルUP		切り返し系	切り返し系	切り返し系	切り返し系 回転系	切り返し系 回転系	切り返し系 回転系	

単元計画

視点④単元を通した複数回の実施

単元の1時間目と単元途中に複数回オリエンテーションを行った。1回ごとの内容を精選して時間を短くすることで、運動量を確保した。どのタイミングで、どのような内容を指導するかなどの工夫をしながらオリエンテーションを実施した。

単元計画

【授業計画】

	①	②	③	④	⑤
0	○体育館全面5周。(時間があれば準備) ○あいさつ				
10	①準備(3分以内) ②リズムジャンプ(4分) ※バドミントンコート ※基本動作の復習(3分) ※目標設定				
20	④ オリI	④ オリII	※担当メニュー(説明も) オーバー・アンダー・サービス		
30	⑤ 試しの ゲーム	⑤ スキル 知識の 確認	⑤スキルアップゲーム ※試しのゲーム その日やったスキルのゲーム の中で使えるか確認		
40	○片付け・振り返り ○あいさつ・着替え				
50					

【仮説2 「単元のゴールの姿」のイメージ化】

視点①オリエンテーションでの明確化

オリエンテーションで必ずゴールの姿を提示するようにした。また、2回目や3回目のオリエンテーションでも、これから取り組む内容を積み上げていくことで目指すゴールの姿を達成できることを示した。さらに、実践をする中で、オリエンテーションの位置付けを明確にすると、目的がはっきりすることが分かり、以下のようにまとめ、指導に生かすようにした。

ア 出会いの場

1回目のオリエンテーションでは、導入として、いかにその種目に向かわせるか、授業のルールや準備・片付け、取り組み方など、「出会いの場」として設定することで、生徒の不安や迷いをなくし、授業に取りかかりやすい環境をつくった。

イ 再確認、再発見、再構築、再出発の場

2回目以降のオリエンテーションでは「再確認、再発見、再構築、再出発」と位置付けて行うことで、単元の後半に向かうモチベーションを上げる場として実施した。

再確認・・・授業のルールや技能のポイント、キーワードなど、これまで学習してきたことを再確認する。

再発見・・・これまでの学習で習得した内容や知識をもとに、友達のよさやできているところ、「こうすればよかったんだ」ということを再発見する。

再構築・・・前半部分でうまくいかなかったルールや準備、チーム編成など、もう一度作り直し、集団として再構築する。

再出発・・・運動が苦手な生徒は、意欲が低下しがちな時期である。ゴールの姿をもとにこれから頑張ること、苦手でもできることを示すことで、意欲向上のきっかけを作り、再出発する。

視点②生徒との共有化

生徒にとって分かりやすい単元になるように、生徒目線でのゴールの姿を設定するようにした。また、常にゴールの姿を示し、達成に向けた毎時間のめあてであること、めあてとゴールの姿が関連していることを説明しながら毎時間の授業を行った。

全体単元目標: ラリーを続けよう! *基本的な技能の基礎を覚えよう ○アンダーハンドパス ○オーバーハンドパス	全体単元目標: ラリーを続けよう! 本時のめあて: ゲームについて理解する 【オリエンテーションⅢ】 ①ゲームのルールを覚えよう ②ゲームでの動きを知ろう ③これからのゲームについて
---	--

ゴールの姿+
本時のめあて

バレーボール ⑤

ゴールの姿 拾って! つないで! アタック!

めあて バレーボールコートで「拾って! つないで! アタック!」はみんなの大事なことを覚えよう

① ランニング 10分
② スキルアップトレーニング
キャッチバレー
作戦会議 → ゲーム
③ チーム練習
ワンキャッチバレー
④ 今日のメイン

作戦会議の内容 構え
空いた場所 声かけ
ポジション (声は高く)

課題
ハイフォートのゲームはもう動了吗?

毎時間単元のゴールの姿を示す

視点③他領域・分野と関連づけた指導

実技を伴う領域だけでなく、体育理論や保健分野との関連を図りながら授業を行うことで、実生活で日常的に運動に親しむことができることをねらいとした。例えば、体育のウォーミングアップ時に、体育理論で生徒が考えたメニューを取り入れた。行い方や回数、目的などについては、考案した生徒が説明し、行い方、考え方の共有を図った。

単元計画							
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
活動内容	【オリの】 【練習】 【練習】	【練習】 【練習】	【オリの】 【練習】	【練習】 【練習】	【練習】 【練習】	【オリの】 【練習】	【練習】 【練習】
めあて	「自分のスキルを得意とするようになる」	「しっかりと着手して練習ができる」	「空中姿勢で美しい空中姿勢ができる」	「文芸一式に慣れることができる」	「自分の得意な動きに自信をもてる」	「課題解決に向けた練習ができる」	「発表会に向けて練習ができる」
体力UP		筋力	平衡性	柔軟性	筋力	平衡性	柔軟性
スキルUP		切り返し系	切り返し系	切り返し系	切り返し系	切り返し系	切り返し系



体育理論で生徒が発案したメニューを行う

4 研究結果と考察

《生徒のアンケートより》

- オリエンテーションで授業が楽しみになった。
- 楽しく、その種目に興味をもてたのがいいと思う。
- テレビを使って説明してもらえるので、分かりやすい。
- ポイントがわかって、話し合いがしやすかった。
- ▼もっと体を動かしたい。
- ▼プロの人の動画が見たかった。

《教師の感想より》

- 授業中の指示や説明が減り、自主的に活動する場面が増えた。
- 技能の名称やポイントの理解が定着しやすくなり、話し合い活動が活発になった。
- 体育理論の授業で運動の組み立て方を学び、各種目ごとに生徒が考えた関連して高まる体力のトレーニングメニューを、その種目のウォーミングアップで実施した。体育理論に対する意欲向上や体力を高める運動に対する意識が高まった。
- ▼単元のゴールの姿は、どのような言葉が生徒に分かりやすく、学習指導要領に沿ったものになるかしっかり考えていく必要がある。
- ▼単元計画を綿密にして、オリエンテーションの内容をしっかりと精選していかないと、説明に時間がかかり、運動の時間が確保できないこともあった。

複数回のオリエンテーションの位置付けを明確にすることで、指導内容が精選され、生徒にとってゴールの姿をイメージしやすい授業が展開できた。その結果、生徒の意欲が高まり、主体的に活動する場面が見られるようになった。また、話し合いの場面では、キーワードやポイントについての発言も増え、話し合い活動の充実にもつながった。さらに、2回目のオリエンテーションの位置付けをしたことで、指導内容に修正を加えたり、学習の進捗状況により、学習内容やルールの変更をしたりすることが容易になった。ルールを変更する意義や現状を生徒に伝え、理解させることでこれからの授業の中でさらに単元のゴールの姿を意識させることができ、単元後半の活性化につながった。

一方で、運動が得意な生徒は、「体育＝体を動かす時間」という意識が強く、オリエンテーションの時間は物足りなさを感じていることが分かった。しかし、授業内容に対しては「分かりやすい」と答えている生徒も多いため、時間や活動内容の工夫などを行うことで、すべての生徒にわかりやすく、充実感も得られるものになると考えられる。

本研究を一つのきっかけとして、生徒が主体的・対話的に取り組みながら技能や体力を高め、生涯を通じたスポーツライフの実現に向けた授業を創造するために、更なる研究を進めていきたい。